



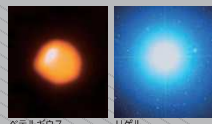
オリオン座

牡牛（おうし）をにらむように昇ってくるオリオン座。全88個の星座の中で一番知名度が高い星座ではないでしょうか。小学校の教科書にも登場します。巨人の狩人オリオンの姿を表したこの星座は、全天で一番明るく、整った形をした星座に思えます。古くから人々に注目されており、その歴史は紀元前からともわれています。

日本でも様々なよび名や見立てで親しまれてきました。オリオン座全体を和楽器の鼓の形と見て「鼓星」。また、下記に出てくる、色の違うベテルギウスとリゲルを「平家星」「源氏星」とよび、赤旗、白旗の源平合戦の星としてみている地域や、ベルトの三つ星を「団子星」「みたらし星」とよんでいた地域もあるようです。オリオン座は、冬の星座をたどるための、目印になるでしょう。

ベテルギウスとリゲル

オリオン座のα星ベテルギウスとβ星リゲルはどちらも0等星と、とても明るい恒星です。ベテルギウスは恒星の一生の中で終わりを迎えようとしている「赤色巨星」といわれる仲間の星です。大きく膨らんでいて、太陽の直径の1,000倍もあります。一方リゲルは質量が大きく、盛んにエネルギーを放出している真っただ中です。色の違いは肉眼で分かります。ぜひ観察してみてください。



今月の見どころ星どころ

M42



文・浜松市天文台
喜澤 俊輔



オリオンのベルトの三つ星の下（足寄り）に、縦に連なった光が肉眼でも確認できます。三つ星に対して「小三つ星」とも呼ばれます。

この部分を双眼鏡や望遠鏡で見ると、ガスが広がっているのが分かります。条件が良いと、肉眼でも、もやっとしたガスが見えることがあります。このガスがM42（オリオン大星雲）です。地球から1,600光年離れていますので、今日この光をご覧になった方は、1,600年前にM42を出発した光を見ていることになります。

オリオン大星雲は星が生まれる場所です。望遠鏡でも見える4重星のトラベジウムは、生まれたばかりの若い星たちの一部です。



2023年の天文現象

- 1/4 しんぶんぎ座流星群
- 2/6 最も小さい満月
- 4/20 部分日食 (13:30 ~ 15:00)
- 8/13 ベルセウス座流星群
- 8/31 最も大きい満月
- 10/29 部分月食 (4:35 ~ 5:53)
- 12/15 ふたご座流星群

星空クイズ

「すい、さん、ち、か、もく、ど、てん、かい、めい、太陽一家のお星様～」という歌があったのですが、知っている方はいますか。そのとき覚えた冥王星は、2006年に惑星から外れて、準惑星となりました。2006年の国際天文学連合の総会で惑星の定義がはじめて決められたのです。現在、太陽系の惑星は、水星、金星、地球、火星、木星、土星、天王星、海王星の8つです。では、冥王星は次のどの条件を満たせずに準惑星となったのでしょうか。

- A. 太陽の周りを回る天体である
- B. 自分の重力によってほぼ丸くなっている
- C. その天体の軌道周辺で圧倒的に大きく、他の同じような大きさの天体がないこと

答えは中面へ

星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

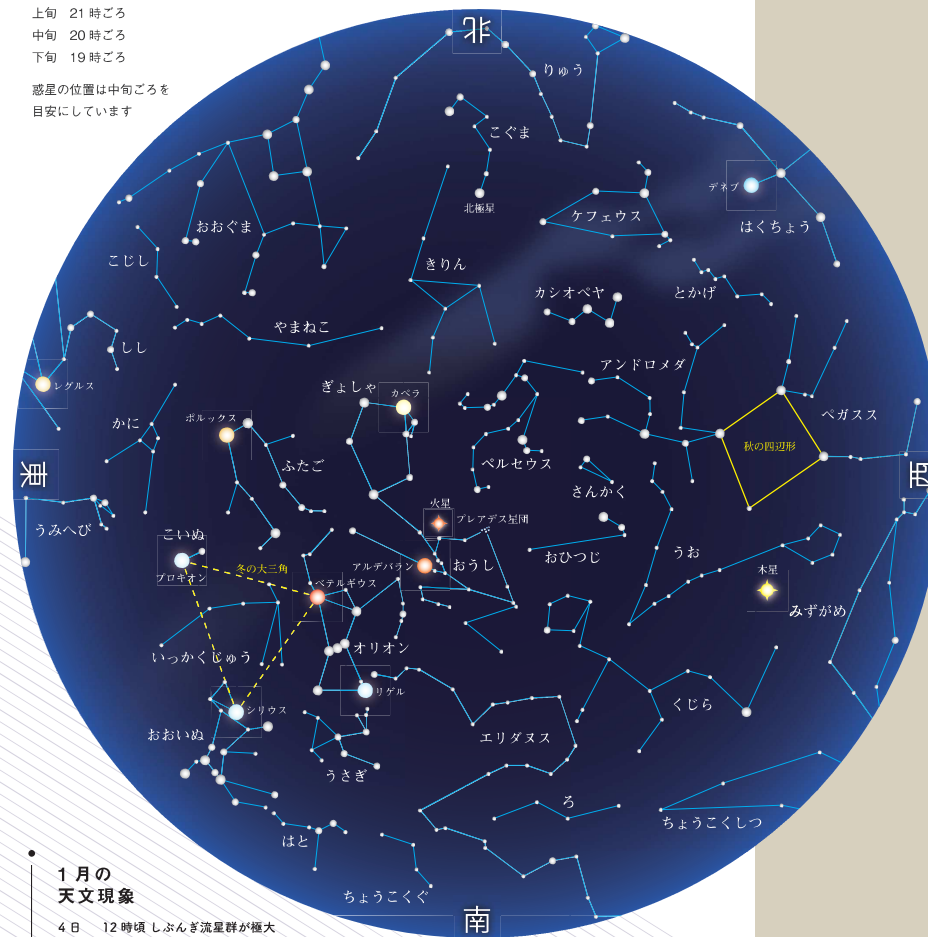
2023年1月

上旬 21時ごろ

中旬 20時ごろ

下旬 19時ごろ

惑星の位置は中旬ごろを目安にしています



1月の天文現象

- 4日 12時頃 しぶんぎ座流星群が極大
- 6日 【小寒】太陽黄経 285°
- 7日 満月 ●
- 15日 下弦 ●
- 20日 【大寒】太陽黄経 300°
- 22日 新月 ●
- 29日 上弦 ●

今月は、夕方から日没後1時間くらいまで、6つの惑星が見られます。金星、火星、木星、土星に天王星、海王星です。令和5年のスタートは惑星がわくわくさせてくれます。また、月の初めは、西の低い空に水星も見られるので7つになり、さらに、月も加わります。令和4年の春は明け方に5つの惑星が並んでいました。「朝は苦手・・・」と見逃した方は、ぜひこの機会に惑星たちをご覧ください。



上の星図は、空にかざして実際の方向と合わせてご覧ください。





1 浜松市天文台

催しはすべて事前予約制となります。浜松市天文台ウェブサイトよりお申し込みください。

詳細・お申し込みは浜松市天文台ウェブサイトをご覧ください。
 新型コロナウイルス感染防止のため、人数制限を行っております。各イベントは事情により中止になる可能性もございます。
 天文台ウェブサイトまたは Facebook で随時お知らせいたします。

ウェブサイトはこちら



イベント情報

※参加費は全て無料です

1/7・14・21・28
土

星空観望会

宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望。
 星座の配置や結び方などを解説します。

- 時間 18:30～20:30
- 会場 天文台屋上階
- 申し込み 開催3日前の13時から受付(30分ごとと先着10組)



1/8
日

太陽・昼間の星観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や、
 昼間に見える天体を観望します。

- 時間 14:00～16:00
- 会場 天文台屋上階
- 申し込み 1/4(水)13時から受付(30分ごとと先着10組)



1/21
土

天文ミニ講座

星座と当夜の見どころについて、星のソムリエが
 やさしくお話しいたします。

- 時間 17:30～18:20
- 会場 2F 講座室
- 申し込み 1/18(水)13時から受付(先着5組)



裏面のクイズの答え：C

星空のエピソード

vol.7 星に染まる

圧倒的な星空に出会ったことがありました。冬期に八ヶ岳で見た星空は、手が届くほど近く、すさまじい輝きでした。しかしこの時はあまりに寒くて、すぐに部屋に帰ってしまいました。星に染まるにはしばらく時間がかかるようです。
 私を夢中にした星たちは、冬の1～3等星たち。ふたご座流星群の観望のため浜辺の公園に寝転んで一晩中見つけた時のこと。東にあったオリオンが西に沈むころ、冬の星々がまるで染めついたように自分の中に残っていることに気づき、星と共にあるような気がして充足感に包まれました。この時から流星群が楽しみです。(文：鈴木謙誌)



2 浜松科学館

プラネタリウム番組情報

解説員が星空をライブ解説する「生解説プラネタリウム」と臨場感ある「大型映像」をお楽しみいただけます。

blog



NEW!

夜空に隠れたうさぎ

生解説プラネタリウム
 夜空に隠れたうさぎ

2023年はうさぎ年。夜空にある「うさぎ座」について解説します。

14:30～15:25
 土日祝・冬季中は11:40～12:35も放映

大型映像
 水の惑星

いのちあふれる海。裏面地球から星空を望み、星の世界に水を探す旅。

15:50～16:35
 土日祝・冬季中は13:15～14:00も上映

キッズプラネタリウム
 こんやのお星さまとおたんじょうびの星座

12歳以下の子供は無料、はままつ館

土日祝・長期休暇期間
 10:30～11:10

高校生以上限定
 夜の科学館 特別放映
 [STAR FLIGHT season II]
 1月は「タイ編」

STAR FLIGHT season II
 1/20
 17:50～18:50

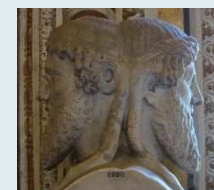
冬季…12/24～1/9 (12/29～1/3は年末年始のため休館)

月のオモテとウラ

1月は英語でJanuaryといいます。
 ローマ神話に登場する出入り口と扉を守る神様とされているヤヌス(Janus)が語源だと言われています。ヤヌスは物事の始まりの神でもあったため、1年の始まりである1月を司るとされています。また、ヤヌスは前後(または、左右)に反対向きの2つの顔を持つのが特徴です。

「2つの顔」と言えば、月は表と裏、2つの顔をもつことをご存知でしょうか?月はご存知のとおり、球体です。しかし、月はいつも表側を地球に向けているので、裏側を見ることはできないのです。そのため、昔は「月の裏側には宇宙人の基地がある」という都市伝説もありました。

地球からは月の裏側を見ることはできないので、裏側を見るためには探査機などで行く必要があります。



◀パチカン美術館所蔵のヤヌス像

アメリカの月探査機クレメンタインが撮影した画像をご覧ください。表と裏ではずいぶん様子が違うことがわかりますね。今のところ、宇宙人の基地は見つかっていません。
 表側には「月の海」と呼ばれる黒い部分が多く見られますが、裏側ではほとんど見られません。「月の海」は水があるわけではなく、玄武岩という黒っぽい岩石でできた平らな土地です。その模様を見て、日本人は「うさぎ」の姿に例えられました。もし、地球の方を向いているのが月の裏側だったら、「うさぎ」は月に居なかったかもしれません。

ぜひ、表にしか見ることができない「うさぎ」の模様をご覧ください。

(文：浜松科学館 天文チーム)



月の表

月の裏

クレメンタインが撮影した月の写真